NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
1	妙高市地域づくり協議会	新潟県妙高市	櫻井 常矢	高崎経済大学地域政策学部教授	地域づくり講演会「実践に学ぶ これからの地域づくりへのヒント」	令和6年4月27日（土）
	講演内容				事業成果	
	人口減少時代の地域づくりにおいて、地域の力がないと解決できない課題が増えてきている。自分たち以外の多様な主体との連携が必要であることや住み慣れた地域の守りたいものがあるからこそ、課題も多くある。これらを解決するためには、本当に大切な取り組みは何か、様々な世代で話し合うことが必要。どんな地域にしたいのか、何のための団体活動なのか、多様な人々が自分の言葉で語り合うことが大切。これからは、人口減から人財増へ繋げ、人が育つ地域社会を目指していくことが重要であると説明があった。				参加された皆様は、これからの地域づくりについて改めて考えさせられる貴重な時間となり、地域に必要なことや地域コミュニティの在り方、地域活性化について考えるヒントを得られた。また、地域づくりに向けてのプロセスやこれからの地域づくりに向けて今あるものを大切にすることや話し合いの重要性、事業・活動の徹底した振り返りをしていくことに気づかされる機会となった。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
2	特定非営利活動法人 市民創作「函館野外劇」の会	北海道函館市	麦谷 真由美	M-claps Dance class代表	市民創作函館野外劇ダンスワークショップ	令和6年4月14日、4月21日、4月28日、5月12日、5月19日、5月26日、6月2日、6月9日、6月16日、6月23日
	講演内容				事業成果	
	野外劇公演出演者のダンスの技術向上を目的とし、ダンスの練習のスケジュールの中でプロのダンス講師から函館外劇の台本を元にダンスの技術指導を受けた。開催回数は予定通り10回。				野外劇の多くの国々の進出場面、港町の反映場面のダンス演技向上のためダンス技術の修練を行い、有料公演に耐えるレベルを達成した。又、市 民ボランティアが創り上げてきた公演を今後も継続し、地域の歴史を伝えていくことが可能となった。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
3	年輪塾	愛媛県伊予市	畠山 重篤	NPO法人森は海の恋人 理事長	人間牧場20周年記念事業「年輪塾公開セミナー＆20周年の集い」	令和6年10月5日（土）
	講演内容				事業成果	
	牡蠣養殖業を営む畠山氏は、海の環境を守るためには海にそそぐ川、さらにその上流の森を守大切さに気づき、漁師仲間とともに「NPO法人森は海の恋人」を結成し、漁民による落葉広葉樹の緑林活動を行っている。この活動は、小中学校の教科書でも紹介されている。活動をしていく中で、海の生態系だけでなく、地球温暖化の防止につながる活動だと認識を改め、全国はもとより、世界各地でその大切さを唱えている。				活動拠点である人間牧場の20周年を迎えるにあたり、節目の事業として実施できた。さらに、講師から地域への想いに学ぶという「郷学（きょうがく）」の視点で、日本人の心の現郷に触れ、地域との関わりを考え、参加者自身がそれぞれの生き方を問う契機となった。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
4	総合型広域スポーツクラブ クロス実行委員会	北海道苫小牧市	山岸奈津子 大澤 千絵	一般社団法人SHIRAOI PROJECTS 代表理事 株式会社ライフキャリア・プラス代表	いぶり寺子屋大学勉強会	令和6年5月31日、6月7日、14日、24日、7月1日、8日
	講演内容				事業成果	
	地域で学ぶを目的に「いぶり寺子屋大学勉強会」というタイトルで、地域で活躍するキーマンをファシリテーター招聘して、ワークショップ、ロールプレイング参加型のお勉強会を開催しました。各講師のテーマと内容は以下の通りです。 【山岸奈津子】 テーマ：マーケティングって結局なんなん？ 内容：私が思う最強フレームワーク キーワードを経理する 事例紹介と個人ワーク 【大澤千絵】 テーマ：女性が自分らしく生きるとは？ 内容：私のキャリアストーリー 女性のライフキャリアについて考える				「いぶり寺子屋大学勉強会」は地域で学び合い、地域で活躍するキーマンたちによる貴重な学びの場となりました。山岸奈津子氏の「マーケティングって結局なんなん？」のテーマでは、彼女独自のフレームワークを通じて、参加者は実際の事例を通じて理解を深め、自身の経験と結びつけることができました。参加者が理論だけでなく具体的な方法論も学べた点が評価されました。 また、大澤千絵氏の「女性が自分らしく生きるとは？」では、彼女のキャリアストーリーを通じて、女性のライフキャリアについて深く考える機会が提供されました。参加者は千絵氏の経験から学び、自身のライフキャリアについて新たな視点を得ることができました。 このような形式は、地域社会の多様なニーズに応えると同時に、参加者が現実の課題に対して具体的な解決策を見つける手助けとなりました。今後は、さらに多様なテーマやファシリテーターを迎えて、地域コミュニティの知識共有と成長を促進していくことが望まれます。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
5	古高取を伝える会	福岡県直方市	坂高麗左衛門	古高取を伝える会	古高取を伝える会研修講座「萩焼の歴史について」	令和6年5月19日（日）
	講演内容				事業成果	
	秀吉と共に朝鮮半島に渡った毛利輝元が、朝鮮陶工李勺光、李敬兄弟を伴って帰国、良質な年度、豊富な木材、水質の便利な萩城下松本村を開窯の場として選んだ。二代藩主からか高麗左衛門の名を賜り、萩焼の宗家として400年の伝統の炎が守り続けられ現在に至っている。 萩焼の特徴は、何と言っても土が粗いため。浸透性、保水性が高く土と釉薬の収縮率の違いによりできる「貫入」であろう。使い込むことによって生じる「七化け」は茶人好みの器として好まれている。飾り気がないが味があり、卓越した技量を持つ先人たちは大名茶陶としての品格を備え名声をとどろかせたことは、藩窯の誇りであった。				萩焼も高取焼も共に文禄、慶長の役により、秀吉と朝鮮に渡り朝鮮陶工を招致し開窯されたという共通点を持つ。良質の土を堀り、探し求め、自身の手で釉薬を作り、薪窯で火をおこす。数々の苦難を乗り越え、土と炎に挑む陶工たちの情熱を膚で感じることが出来、直方が高取焼発祥の地であることを誇りに思い、まちの歴史をより深く学び、町の歴史を誇りに思い直方のまちづくり貢献していく使命感を強く感じさせられた。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
6	みんなとみなとPROJECT	長崎県雲仙市	濱田 祐輔	株式会社 つばめ屋代表	はまゆう現地アドバイス及びトークセッション	令和6年4月20日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	煮干し生産地の現状と今後について議論し、水産現場を取り巻く諸環境の向上と魚食文化の継承・発展させることを通じて地域住民の郷土愛を深めること、並びに環境問題に関心を持たせることや若者の人口流出を防ぐことを目的として開幕した。 また、煮干しの生産量は、長崎県が日本一であるも、ブランド力では、香川県観音寺市の伊吹島の煮干しが先行している。今回の「はまゆう」こと濱田祐輔氏は、約80万人近いフォロワーを誇る日本有数のユーチューバーである。濱田氏の知見と発信力に期待してのご講演と乗船してからのアドバイスをいただいた。 講演内容については、なぜ漁師がユーチューバーになったのか？漁師とユーチューバーとの並立のメリット・デメリット。今後の漁師のあるべき姿などについてを話していただいたが、時の人とあって大変多くの来場があった。自身の生い立ちや、現在も住む小豆島の環境や漁法・漁獲内容そして、プロデュースする水産加工品の開発までの経緯など興味深い話があり、聴衆にも共感と今後の展望がそれぞれうかがえるような貴重なものとなった。				漁師がYouTubeで生業を発信するという今までになかった取り組みは、全国的なブームを巻き起こしたと考えられる。同様のYouTubeも派生するもフロンティアの存在は聊かも揺るがず、講演会当日は、来場者が約6,000人となる盛況となった。 漁師としての知見により、魚の調理法や加工品への転用など的確なアドバイスをいただいた。小豆島とは魚種が異なるものの、当地においても値段がつかず廃棄される魚を使ったスープや佃煮、漁網のタオルなど早速、取り入れられるものであった。 また、船上において動画撮影を行ったため今後、配信されることで当地漁業のブランド化・高付加価値化に期待が持てる。なお、船上撮影の手法についても教授されたため、新鮮な魚の情報発信につながっていくことで水産業の振興に寄与すると考えられる。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
7	ウミガメネットワーク三重	三重県津市	伊藤 柊也 山本 欣生	紀宝町ウミガメ公園飼育員 紀宝町ウミガメ公園施設管理担当	さわって、まなぼう ウミガメフェスタ	令和6年5月3日（金）
	講演内容				**事業成果**	
	来場者に紀宝町ウミガメ公園から連れてきたウミガメを見せて、ウミガメの生態について説明をした。連れて来たウミガメは、アカウミガメとアオウミガメ各1匹ずつだった。講師さんに種による違いを説明してもらったり、来館者にじっくり観察してもらった。ウミガメが泳ぐ様子を観察したり、ウミガメの甲羅を触ってみたりと来場者は興味深げだった。多くの気づきや発見があったと思う。				ゴールデンウイーク中だったので、来館者は非常に多かった。多くの人に本物のウミガメを見てもらえて良かった。伊勢湾沿岸にもウミガメが産卵に訪れていることを知ってもらうことが目的だった。今後、ウミガメの上陸跡や漂着死体等を見つけた時にご連絡いただけるようお願いした。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
8	長崎龍馬会	長崎県長崎市	①ブライアン・バークガフニ ②黒田 雄彦	①グラバー園名誉館長、長崎総合科学大学教授 ②特定非営利活動法人長崎の風 代表	長崎「坂本龍馬之像」建立35周年記念事業	令和6年5月18日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	①ブライアン・バークガフニ先生は、テーマ「幕末の志士とイギリス商人たち」幕末の志士たちの生きざまと、イギリス商人たちとの関わりや時代背景等、当時の状況をわかりやすく解説された。 ②黒田雄彦氏は、テーマ「長崎なんでん かんでん」自身の全国を歩いて制覇した体験談を踏まえ、長崎の街の魅力を語られ、県外からの参加者に対し、長崎の面白さを知ってもらった。				①幕末の長崎の特徴、志士達と海外の異文化との交流を理解してもらい、県外からの参加者に、長崎のすばらしさを確信してもらった。 ②長崎の街の魅力を理解してもらい、特に県外からの参加者に長崎を好きになってもらい、そのことにより地域活性化に繋げることが出来た。 場所が史跡料亭「花月」という事もあり、環境にも雰囲気づくりに効果があった。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
9	NPO法人とす市民活動ネットワーク	佐賀県鳥栖市	大月 浩靖	三重県いなべ市防災課課長補佐	「地域で取り組む防災」～災害支援の現状、防災、災害時のそれぞれの役割～	令和6年5月31日（金）
	講演内容				**事業成果**	
	（講演内容）令和6年能登半島地震から見えてきたこと ・災害時の道路啓開の重要性 ・地域特性を考えた避難所の開設 ・平時からの地域で支える仕組みづくり 少子高齢化が進む中、平時から行政・起業・NPO・自治会など機関を超えた情報共有と連携を図り地域を支える仕組みづくりを行う必要がある。特に地域連携で高齢者・障がい者を支える1歩先を見据えた仕組みづくりが重要である。 また、災害復興期に生活再建や健康面での支え手が十分でないと被災生活が長引くことになる。公的な機関や専門職による支援とインフォーマルな民生委員やNPO・民間団体両方の役割は大きくなる。				行政職員は防災担当部署だけではなく、それぞれの部署での役割を再認識するとともに、平時から自分に何ができるかを考えるきっかけとなった。自治会や団体等も自分にできることを考え、地域の防災力を高めるための事例を参考に「信頼できる」「顔見知り」を作っていく活動を進めていくことになった。日頃からの近所付き合いの大切さ、状況（独居・ひきこもり・住まいの環境等）を知っておくために、行政・社会福祉協議会・NPOで情報共有の会議を進めていくことを再確認した。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
10	本のソムリエ団長・世話人会	福岡県飯塚市	本のソムリエ団長	教育関連講演、読書活動、経営セミナー講師、翻訳家等	読書で広がる世界－講話や読み聞かせ活動を通して－	令和6年6月12日（水）～14日（金）
	講演内容				**事業成果**	
	保育園、幼稚園、四小学校では、団長さんオリジナル世界旅行動画、絵本「けばけば」「はやく大きくなりたいな」「もっとたべるのだあれ？」等を実態に合わせ、電子黒板等に拡大したり、じかに見せたりしてハイブリッド読み聞かせをされた。本を題材に夢を盛ったり、夢をかなえたりするために努力することや、友達、先生、家族を助けたり、やさしくしたりすることを伝えられた。登場人物の気持ちに合わせた読み方や、子どもとのやり取りで子ども達の集中力、興味関心を非常に高められた。特に絵本「もっとたべるのだあれ」では子ども達を十分に惹きつけられ子ども達の主体的な発表を多く引き出された。地域の皆様への講和においては、「継続！団長と行く世界旅行」で団長のヨーロッパ旅行・特にドイツのクリスマスマーケットやパリの講和をいただいた。世界の文化・芸術・食文化の話をされ、コロナ禍で閉ざされた気持ちを広げてくださった。				3日間という短期間に670人の方が参加され、じかに団長さんの話を聞くことができた体験が、大きな成果の一つと考える。子ども達は「けばけばさんのようにやさしくなりたい」「夢をあきらめない」「本を読むのが楽しかった」「団長さんにまた来てほしい」「団長さんのように世界を旅行したい」「たくさんの本を読みたい」など話していた。また保育園児童は全身で読書の楽しさを表現していた。 読書の興味・関心を高めたことや自己肯定感を高め、夢を叶えることや自分や人を大切にすることを考える機会となったと思われる。先生方は、「より子どもの意欲を高める読み聞かせについて考えさせられた」保育園の園長からは「本の読み聞かせ方について若い先生の人材育成につながった。」と話された。地域の皆様も、「ずっとコロナ禍で、団長さんの話でほっとしました。」と話された。素晴らしい世界の文化に触れ、心豊に学び続けることの楽しさを味わわれたようだ。保育園、学校、地域に皆様より「また来てほしい」という強い要望をいただいた。 以上のことより、今後も本のソムリエ団長の読書活動を継続したいと考える。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
11	1.5会	宮城県東松島市	伊藤 たか子 土澤 昭子	石巻ダンベルクラブ みなみ民謡愛好会	健康（地域・仲間）づくり	令和6年6月14日、28日 7月12日、26日 10月25日、11月8日 12月13日、20日（各金曜日）
	講演内容				**事業成果**	
	『ダンベル体操の基本動作と効果』と題しての講和 ダンベル体操は基本的にはダンベルの選び方、正しい握り方、基本動作の姿勢、注意事項等を認識、玄米ダンベルを使用し12ポーズに基づいての動作で背を伸ばして股を軽く開き、やや腰を落とすのがポイント。腹筋や背筋などを鍛え、バランス等保つことで転倒防止のトレーニングにもなるので効果が期待できる。				参加者の方も興味のある内容でもありメモを取ったり、質問をするなど感心の高さが見られまして成果がありました。今後共地域に密着した活動を心がけて継続することで、地域との交流、会員同士の親睦、健康づくり、仲間づくり、介護予防、フレイル予防の増進目的に地域づくり、活動につながることを期待したい。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
12	カッキークラブ交流会	奈良県五條市	岩出 景子	野の花文庫・野の花赤ちゃんルーム主宰	わらべうたを楽しもう夏編	令和6年7月21日（日）
	講演内容				**事業成果**	
	午前中の、乳幼児と保護者を対象とした時間への参加者は、予定の9組が、体調不良のため3組が欠席となり、昨年に引き続き参加の3組の親子と今回初めて参加の3組の、計6組が参加した。講師は、会場の外で摘んできたヨモギやエノコログサを使ってわらべうたを紹介し、身近なものでの楽しみ方について講義を行った。また、季節に合った果物や、昆虫などが出てくる絵本を沢山紹介していただいた。 午後からは、保育士やおはなし会のメンバー、地区民生児童委員や婦人会会長等が参加した。わらべうたの実践をしながら、午前中の様子を話し、子どもたちの反応なども共有した。同じわらべうたを何度も繰り返し、講師からはすぐに実践できるように説明いただいた。 初めて見る絵本が沢山あり、参加者からは「是非子どもたちに紹介したい」と好評であった。				午前中の乳幼児と保護者を対象にした時間では、今回もわらべうたを歌いながら、子どもと触れ合う遊びの方法や、年齢や季節に合った絵本の紹介があり、是非子どもと楽しみたい、また、身近な草での遊び方や、遊びの意義を聞き、勉強になったとの声が聞かれた。 午後に参加された、若い保育士からは「初めて知る歌や遊びも多く勉強になった。とても楽しかったので園でも実践していきたい」と言う声が聞かれた。実際、早速園で0，1，2歳児に実践していると園長先生からの声を聞かせてもらった。また、昨年に引き続き参加された方からは、とても楽しい時間で今回もリフレッシュできた。今回初めて参加された方からは、自分の子育ての時に知りたかった、是非わらべうたの楽しさを伝えてほしいと期待された。メンバーでも、研修を重ね、夏に使えるわらべうたも子どもたちと楽しんでいきたいと思う。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
13	道雪会	福岡県糟屋郡新宮町	赤神 諒	大学教授	第8回文化講演会【女武将・闇千代とその可能性】	令和6年10月6日（日）
	講演内容				**事業成果**	
	NHK大河ドラマ招致活動の一環として道雪会第8課文化講演会の講師として赤神諒先生をお招きして闇千代を中心にした立花宗茂など戦国時代の武将の生き方から、現代に通ずる教訓などのお話をして頂きました。又、立花宗茂と闇千代は新宮町にとって大切な財産であり、地元の理解を得ることで町おこしの試みもできることを丁寧に具体的にお話をして頂きました。				道雪会　第8回文化講演会の開催実施。NHK大河ドラマ招致活動の一環として赤神諒先生をお招きしての講演会に405名もの地元の皆さんにご来場いただきました。数年前と比較し立花宗茂と闇千代の認知度が高くなってきているのを肌で感じることができ会場は大いに盛り上がりました。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
14	特定非営利活動法人　奈良能	奈良県奈良市	①森山　泰幸 ②山中　雅志 ③金春　飛翔	公益社団法人　能楽協会 公益社団法人　能楽協会 公益社団法人　能楽協会	奈良発祥の無形文化遺産である能楽の普及による地域活性化	令和6年7月15日（月）
	講演内容				**事業成果**	
	1. 森山講師による能楽概論。能楽は世界に誇る日本の芸能である。 2. 能楽と奈良の深い繋がりについて。能楽は奈良発祥の芸能であり、郷土の誇りである。 3. 能楽の職分と流派、さらにシテ方の「上掛かり」「下掛かり」について、実演を交えての講義。 4. 謡指導・講エ指導。山中講師による「上掛かり観世流」、続いて金春講師による「下掛かり金春流」舞台上より謡指導。続いてそれぞれの構エの指導。 5. 謡指導のあと、同時進行で囃子の講義。受講者には実際に使う楽器を手にとってみていただく。受講者は少人数で入れ替わり、森山講師、山中講師、金春講師を巡回する。 6. 同時進行で実際に舞台で使う能楽の面、衣装、持ち物などを舞台上に展示。受講者に間近に見ていただく。受講者からの質疑応答も受けた。				能楽は日本の文化遺産であり、その発祥の地である奈良の誇りである。奈良の能楽の特徴は他の地域と異なり、庶民に広く浸透してきたことで、庶民が「おんまつり」や「薪御能」を支えてきた。本講座は能楽に依ってこれからの奈良を活性化するため、能楽の普及と良質な観客の育成を目的に行った。今回は流派の違いをテーマとし、限られた時間内にいろいろな内容を詰め込んだが、受講者はよくついてきてくださった。本講座は舞台を演じる能役者が、自分の言葉で受講者に語り、指導するのが特徴で、実際に舞台で使う道具類を手にとってもらうことで、より身近に感じてもらえたようで、大変好評であった。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
15	一般財団法人　淡路島くにうみ協会	兵庫県洲本市	山口　浩	神戸北野ホテル総支配人	第1回淡路島くにうみ講座	令和6年7月7日（日）
	講演内容				**事業成果**	
	当講座は、当協会の主たる事業として、島内外の人々に、淡路島のすばらしい自然、歴史、文化等を広く知っていただくとともに、淡路島の地 域活性化と淡路を担う人づくりを目的として年数回開催している。 今回は、ひょうご五国の食文化～淡路島の食材の魅力～と題して講演いただいた。				終了後のアンケート結果をみると、8割以上の方が「大変満足」又は「満足」と回答しており、ほとんどの参加者に満足いただいた講座となった。 また、50代以上の高齢者の参加が多い講座であるが、40代以下の方も16.4%を占めている。初参加も37.9%であり、新たな参加者層の開拓につながったことに加え、地元の食材、食文化への関心を深めていただけたと評価している。 以上の結果を踏まえ、今後も、情報配慮を行うイベントとして多くの方に参加いただける講座を目指すとともに、引き続き当講座の目的である淡路島の地域活性化と淡路を担う人づくりに向けた講座を開催していきたい。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
16	長野市大岡地区住民自治協議会	長野県長野市	三澤美玲 高須生恵	認定NPO法人ふるさと回帰支援センター 長野県専従移住相談員	移住相談の現場の声をヒントに移住受入れのための地域づくりを考える	6月3（月）～4日（火）
	講演内容				**事業成果**	
	6/3）講師ならびに長野県・長野市の移住窓口担当職員と共に、地域（大岡）内を視察。移住者宅等を訪問し、翌日のシンポジウムに備え地域の状況や住民意識などの共有を図った。 住民との対話の中で、地域に欲しい移住者像は明確化して、受入れる立場であろうともそれを積極的に発信すべきとのアドバイスを得た。 6/4）ふるさと回帰支援センターの役割と各種事業の説明を受けるとともに、長野県の移住相談件数・面談件数はともに年々増加しており、長野県が移住候補地として人気があることを再確認した。ただ、移住希望者の動機や移住形態は千差万別で多岐にわたっており、受け入れ側としては移住者の傾向をみて対策をとるような施策はそもそも通用しないと認識した。 同時に、パネルディスカッション等をつうじて、地域コミュニティの重要性や受入れ可能な空き家の確保などが移住受入れの大事な要素であるということは地域内で共有できた。				本シンポジウムは、いま地域で進めている空き家調査を起点とした移住に向けた取り組みをさらに加速させる動機となった。また、シンポジウムに出席した地元中学生からは、自分たちでも何かできないかと、中学生目線で大岡をSNS等で紹介したいとの声が挙がるなど、地域内で新たな動きも生まれようとしている。 さらに、今回の講座を通じて、ふるさと回帰支援センターならびに長野県、長野市の移住窓口と直接つながったことにより、今後地域での移住受入れの動きに絡んで様々な相談や連絡ができる素地が生まれたことも大きな成果であると考えている。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
17	特定非営利活動法人あしやNPOセンター	兵庫県芦屋市	①西　智弘 ②津久井　進	①一般社団法人プラスケア代表理事 ②公益財団法人こども財団理事長	災害時対応セミナー	令和6年12月8日（日）
	講演内容				**事業成果**	
	講演会テーマ：「「災害時」に孤立しないために知っておきたいこと」と題し、阪神・淡路大震災から30年を経た今だからこそできることについて、津久井氏から被災地での事例紹介、「災害ケースマネジメント」についての説明を行った。「災害ケースマネジメント」とは、一人ひとりに必要な支援を行うため、被災者に寄り添い、個々の状況（被災・生活）を把握し、様々な支援策を組み合わせ、連携して生活再建を支援する仕組みであり重層的に伴走し続けることの大切さを伝えた。西氏からは社会的孤立・孤独対策として「社会的処方」を取り入れ、地域とのつながりを利用して人を元気にする仕組みについて学び、効果と実践者としての事例紹介を行った。				「災害ケースマネジメント」と「社会的処方」の共通点として、当事者一人ひとりの実情を把握し、多くの社会資源で重層的に伴走する支援であることを伝える機会となった。また、学びだけで終わらず、今自分ができることを考える動機づけとなったことが参加者の感想からも良くわかった。 ・「法の専門家から具体的事例とともに制度の活用を学んだ」 ・「地域で人とつながることにチャレンジしてみたい前向きな気持ちになりました」 ・「平時からの関わりが大切なことがよくわかりました」 ・「孤立・孤独のもたらす影響の大きさが良く分かった」 後半の交流会では、参加者同士の活動紹介やつながりもみられた。この講座を通して平時から地域とつながること、災害時、災害後の対応の大切さを互いに理解し合えた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
18	一般社団法人INCREW	兵庫県豊岡市	①首藤　義敬 ②吉川　史浩 ③首藤　美幸	①株式会社Happy　代表取締役 ②株式会社Happy　OUTDOOR LAB事業部長 ③株式会社Happy　取締役	固定概念を超えてまちづくりを考える	令和6年6月12日（水）
	講演内容				**事業成果**	
	神戸市長田区で展開されている「介護付き多世代シェアハウス」の介護支援だけでなく空き家再生、地域コミュニティ作り、人の集まりや流れを生み出すための仕掛けづくり、社会になじみにくい人たちや、学童だけでない子どもたちの居場所づくり等を交えた場所づくりが結果としてまちづくりに影響している実証事例。客観的に他地域から見た但馬地域、豊岡市の魅力と可能性のお話。実際働く人の生の声を聴きながら、日々の課題や問題にぶつかったときの進め方などのディスカッション。午前中に視察した豊岡市の観光を含めたこれからの伸びしろや魅力、都市部と地方の違いと価値の見せ方などのディスカッション。				当日は高校生、大学生、地域おこし協力隊、豊岡市や新温泉町などの社協職員、アウトドア活動員、市議会議員、豊岡市職員、前市長、福祉系NPO法人、支援が必要なお子さんの親御さんなど年齢も様々で多岐に渡る参加者にご参加いただき、活発なディスカッションも交わされた。コミュニティづくりや新しい価値を生み出すまでの人×人の摩擦や軋轢、トラブルなどはどう対処しているのか？問題が浮上したとき困った人が来た時の解決の秘訣は？コミュニティつくりやまちづくりを円滑に進める時におけるアートの力、アーティストの役割をどう感じているか？など具体的なディスカッションを交えることで自分たちの住む地域の「価値」を一歩前進させるための現実的な指針が見えた。突発的なイベント性だけでなく日々の「暮らし」のなかにいかに価値を生み出し続けるかという現実的な歩みのヒントを得た。物事を生み出すには生み出しやすい環境づくり、発言、発信しやすい状況から仕掛けていく大切さを学ぶ機会となった。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
19	まつしろ現代美術フェスティバル 実行委員会	長野県長野市	竹澤悦子 石坂亥士 杉原信幸 小山利枝子	箏奏者 神楽太鼓奏者 NPO 法人原始感覚舎理事長 画家	まつしろ現代美術フェスティバル 2024 のためのレクチャー	令和6年6月30日（日）
	講演内容				**事業成果**	
	第19回まつしろ現代美術フェスティバルと同時開催のトークイベントを行い、講演予定の久田舜一郎氏が前日肩を骨折してしまい参加できない代わりに箏奏者の竹澤悦子氏、神楽太鼓奏者の石坂亥士氏、画家の小山利枝子氏、美術家の杉原信幸氏を招き、今回のイベントの発端となったコントラバス奏者の故齋藤徹氏とザイ・クーニン氏の2018年に行われた「まつしろの地霊に捧ぐ」から齋藤徹氏という偉大な音楽家についての各々の関係について語り、直前に行われた公演の感想を含めて、松代藩文武学校の槍術所という素晴らしい木造建築物で、現在も国際的な文化イベントを行うことができるという生きた文化がどのように松代で育まれてきたのかについて共有された。ただ歴史的建造物を守り、展示するだけではなく、現在も、剣術や弓道、槍術の練習を国指定史跡の中で行うことができ、文化的なイベントを行うことができる松代の土地の懐の深さについて語られた。				地元ゲストの石川利江氏、青木恵氏の地元での活動に加え、地元参加者からの感想や意見も交え、先人の築いてきた文化的遺産を守るだけではなく、どのように松代の生きた文化をアートや音楽イベントを通してより発展させていけるかについて語り合うことができた。これも一重に、国境を越えて文化の交流をもたらす黒潮のようなダンスと音楽による公演によって、そこに集った人々の心を開き、各分野で活躍する表現者の立場から文武学校という場や松代の土地を語ることで、その文化的意義を再確認し、来年以降の発展的継続と、参加者の中からも、そこにかかわりたいという協力者の声が生まれる機会を生み出せたことは大きな成果であると考える。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
20	一般社団法人青森県レクリエーション協会	青森県青森市	後藤剛彦	日本レクリエーション協会事業部部長	令和6年度レクリエーション講座　基調講演「「ウォークラリーについて学ぼう」	令和6年7月14日（日）
	講演内容				**事業成果**	
	【ウォークラリーについて学ぼう】 ・ウォークラリーとは何か ・コース図（コマ図の連続）と時間・課題得点について ・コマ図の見方 ・コースをつくるために決めておくべきこと（フィールド、テーマ） ・具体的なコース作成・コマ図と課題の作成について ・迷わせる可能性があるコースには人を配置してチェックポイントとする作戦について ・わかりやすく迷わないコース作りのための「試し歩き」の大切さについて ・参加者を困らせる課題例 ・ウォークラリーの魅力とは 以上について「楽しい活動を企画して参加者の笑顔と触れ合う」ことを念頭において講師資料を基に学び、研修後半では実際に外に出て、2種類の在宅地図をもとにグループ毎にコマ図と課題を作成し、違うグループとコマ図を交換して歩くなど、実践的な研修であった。				ウォークラリーについて最初から理解している参加者は数名だったが、ほぼ全員がコマ図を自分の手で書き出すことができた。 ウォークラリーのポイントを学んだことで、現在行っている地域は「より精査して行っていきたい」、まだ行っていない地域の方は「町おこしなどで使いたい」と意欲的な意見が開かれた。 また、「課題は地域の発見を盛り込みながら」という講師からのお話に沿うよう実地研修したものの、歩きながらコマ図と課題を考えるのは各グループとも難しかったという意見も開かれた。 グループでの参加申込が多かったので、ほぼそのグループで動いていただいたが、その後研修会場に戻り振り返りを行った際、「この点をこうしたら」「ここはわかりづらい」と客観的な意見交換ができ、交流を図ることができた。 ウォークラリーの魅力と狙いを知り、さらに楽しい活動の企画には、丁寧な準備と時間が必要だと全員で共有できた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
21	(特)ア ピース オブ コスモス	三重県尾鷲市	山本俊哉 森脇環帆	明治大学理工学部・専任教授 明治大学まちづくり研究所・研究員（博士）	防災に福祉と観光を掛け合わせた地域づくりの担い手育成事業	令和6年6月29日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	午前の部では、山本氏が「津波からの『逃げ地図』と『私の避難プラン』のつくり方」、森脇氏が「『キツネを探せ！』に見る高齢者避難の支援をめぐる葛藤」について講演し、その後、道路閉塞の有無、徒歩または車両による避難などの設定条件の異なる「逃げ地図」を4班に分かれて作成した後、参加者が「私の避難プラン」を作成し、得られた成果を発表・共有した。 午後の部では、森脇氏が「ジオキャッシングを使った『キツネを探せ！』の方法」について講演をした後、4班に分かれて、旧三木里小学校周辺の防災と観光に関する地域資源をめぐり歩いて「キツネのシール」を集めながら、避難行動要支援者と遭遇するゲーム仕立ての津波からの避難訓練を実施し、参加者の意見交換会を開催した。				午前の部では、津波からの「逃げ地図」と「私の避難プラン」を連続して作成することで、津波災害時に想定される最も安全な避難経路を確認し、老朽ブロック塀などの倒壊に伴う道路閉塞の問題や避難行動要支援者の避難支援方法の課題を共有することができた。また、住民らが自らファシリテイターとして逃げ地図づくりを進め、参加者の意見を引き出すなど地域づくりの担い手育成の好機になった。 午後の部では、小中学生の親子らが「逃げ地図」を下敷きにした「キツネを探せ！三木里MAPを持って三木里地区内の観光資源や防災資源をめぐり歩くことで、楽しく防災と観光を掛け合わせた地域づくりについて学ぶとともに、避難行動要支援者の避難支援の方法を体験することができた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
22	一般社団法人おいしい防災塾	兵庫県神戸市	①廣澤　孝俊 ②中玉　利展子 ③投石　悠一 ④諏訪　清二	①穴水町立穴水中学校　校長 ②兵庫県震災・学校支援チームEARTH所属、姫路市立高浜小学校教諭 ③兵庫県震災・学校支援チームEARTH所属、伊丹市立花里小学校教諭 ④兵庫県立大学客員教授、防災教育学会会長	災害時の教育の確保と復旧・復興～能登半島地震の事実から考える～	令和6年7月6日（土）

講演内容	事業成果
石川県能登半島地震直後の穴水中学校の、時系列のお話を廣澤校長先生に1時間ほどお話していただいた内容は、とてもわかりやすく、教師が何をしたか？が理解できた。生徒の安否確認、授業の再開方法等、細かく話して頂いた。今後は教師側のケアも必要なのでは？という課題を頂いた。諏訪先生にはアドバイスとして、兵庫県教職員が所属する団体「兵庫県震災・学校支援チームESRTH」を石川県に設立する方法を説いていただいた。 今後、石川県にも教職員の団体が発足する為、8月に有志で赴くことになっている。	石川県能登半島地震は、阪神淡路大震災に酷似していると、経験者は意見交換時に話した。復興は阪神淡路大震災では早かったが、石川県能登半島地震の被災地は、まだ復興を出来ていないという現状を周知した。僻地、過疎化の地域での大きな災害時の対処の仕方というのが、今後の防災を学ぶ者にも課題となった事で、心のケアというのも、とても大切な支援のあり方だという事がわかった。 そして最終的な結論が兵庫県教職員が所属、被災地支援活動をしている組織を石川県等、全国に発足する、という助言を賜った事が実際に文部科学省が実施する動きを見せているという後日新聞紙に掲載されていた。私達が結論づけた同じ内容が実施されるという、とても貴重な第一歩の防災シンポジウムを開催する事が出来たと自負している。

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
23	NPO 法人原始感覚舎	長野県大町市	臼井健二 黒田将行 雪雄子 大木美智子	シャンティクティ(代表) 熊造園（代表）、 舞踏家 ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校(上級講師)	原始感覚におけるパーマカルチャーと縄文と舞踏と美学	令和 6 年 8 月 31 日（土）

講演内容	事業成果
探検家、食生態学者の西丸震哉の記念館を中心に長野県大町市木崎湖畔で毎夏開催され、15 年目の開催となる「信濃の国 原始感覚美術祭2024－水のうつほ」において、食品添加物や農薬など食の安全性に警鐘を鳴らした西丸震哉の活動を継承し、シャロムヒュッテの創業者で、安曇野でシャンティクティを運営するパーマカルチャーのパイオニアである臼井健二さんを招いて、世界中の持続可能な循環型社会を目指す農的な暮らしや、消費する生活から創造する生活への転換についてのトークイベントを行った。原始感覚舎メンバーや美術祭を訪れる人と食について学ぶ機会を作り、欧米化が進み、残留農薬や放射能、添加物などさまざまな問題に晒される日本人の身体と精神の源になっている食について考え、青森県津軽の岩木山の麓で東北や縄文的な身体感覚で踊る舞踏家の雪雄子さんを招き、原始的な身体性についてのトークを行った。ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校上級講師の大木美智子さんを招聘し、西洋的視点に依らない多神教的な世界から見つめる原始感覚美術祭について美学・美術史研究者の立場から語ってもらった。そして山梨県の梅ノ木遺跡で手作りの磨製石斧で木を伐り竪穴式住居を建てる実践考古学を行っている黒田将行を招聘し、縄文文化から原始感覚を考えるトークイベントを開催した。	臼井健二さんの持続可能なパーマカルチャーについて学び、黒田将行さんの語った縄文時代に行われていた自然とともに持続可能な生活を送るいのちの円環についてのパーマカルチャーとの繋がりが共有された。雪雄子さんから土方巽の東北の土着性から生まれた舞踏の持っている身体感覚が語られ、大木美智子さんの西洋中心主義とは違う道を西洋自体が模索し始めており、土着の文化からアートを捉え直す原始感覚美術祭の試みが非常におもしろい可能性を持っているという視点が共有された。もう一人のゲストのアイヌ文化アドバイザーの平田篤史さんのアイヌの歌や踊りの土着性についての話など、土着性をキーワードに非常に広い視点での原始感覚が語られることで、多層的な原始感覚という言葉の持つ可能性が、原始感覚舎メンバーや集まった人たちと共有された。後半は、会場の声に応える形で、通訳を交えての海外からの声や、台湾原住民と漢民俗のハーフである参加作家の、原住民性についての各参加者の意見が共有され、原住民の受け継ぐ文化のかけがえのなさと、大町という土地における土着性に基づく原始感覚美術祭を行う意義について話され、訪れた人と作家達が共有することができたことは 15 年目という節目を越えて継続していくうえで大きな意味があった。

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
24	観光まちづくりの会	兵庫県丹波市	田口　みほ	植物療法教室「FRAWORL」主宰 英国IFA認定国際アロマセラピスト 日本メディカルハーブ協会認定ハーバルプラクティショナー、植物療法士、日本心理学会認定心理士	健康長寿日本一をめざす「暮らしの広場づくり」	令和6年7月12日（金） 令和6年8月21日（水） 令和6年9月29日（日） 令和6年11月8日（金）

講演内容	事業成果
本事業では、地域住民や観光客を対象に全4回の講座を実施しました。第1回では薬草園とハーブの役割について講義を行い、実習として虫刺され軟膏を作りました。第2回ではハーブを生活に取り入れる方法を学び、虫除けスプレーを製作しました。第3回はクロモジを使った蒸留実習とハーブの利用法を学び、第4回では月桂樹の収穫から蒸留までを実践的に行いました。各回で専門的な講義を交えながら、実習を通じて参加者が実際に薬草やハーブを活用できるよう指導しました。参加者からは「日常生活に役立つ知識やスキルが身についた」との声が多く寄せられました。	本講座の実施により、地域住民の健康意識と健康維持能力の向上が図られました。特に、虫刺され軟膏や虫除けスプレーづくり、クロモジや月桂樹の蒸留体験など、実習を通じた実践的な内容が参加者に好評で、学んだ内容を日常生活に取り入れる動きが見られました。また、薬草園の活用が進み、地域内外の注目を集めることで観光資源としての認知度も向上。講座への参加者数の増加に伴い、地域の活性化と経済効果も期待されます。これらの成果は、丹波市の「健康寿命日本一」の目標に向けた一歩を着実に進めることができました。

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
25	特定非営利活動法人なんぷねっと	青森県南部町	渡邉　洋一 佐藤　拓郎 池田　右文 なぎさ　なおこ	特定非営利活動法人地域福祉研究室pipi総括責任者・理事長 ㈱アグリーンハート代表取締役 ㈱池田介護研究所 ㈱フードコミュニケーション代表取締役	「食と農と福祉」の連携による新たな地域・まちづくり	令和6年11月6日～7日

講演内容	事業成果
11月6日に渡邉洋一氏に来町していただき、南部町における食と農と福祉の連携の現状を確認および把握することを目的に食と農と福祉の連携に関わる町内の関係者と2団体（NPO法人三本の木フレンド理事長　林悦子氏、社会福祉法人恵生会理事長　工藤恵一氏）を訪問し、それぞれの事業ビジョンや展開について取材し、情報交換をした。7日の2日目は11時から青森県内で食と農と福祉のそれぞれの分野で活躍される食の分野から株式会社フードコミュニケーション代表取締役のなぎさなおこ氏、農の分野から株式会社アグリーンハート代表取締役の佐藤拓郎氏、福祉の分野から株式会社池田介護研究所代表取締役の池田右文氏の3名とNPOとして新たな食農福の連携による事業を展開している本会とで、フォーラムを前に元青森県立保健大学教授であり、特定非営利活動法人地域福祉研究室pipiの理事長渡邉洋一氏を講師に指導助言をいただきながら、「食と農と福祉による地域づくり」に関して、情報共有かつ討議を1時間ほど行い、昼食時間を挟んで、13時から「食と農と福祉フォーラムin南部町」を一般公開して開催、その中で開催地である南部町長と渡邉洋一氏との特別トーク対談を前半に、南部町における食と農と福祉の取り組み、今後のまちづくりビジョンを語っていただいた。後半には、コーディネーターに渡邉洋一氏、食と農と福祉の分野それぞれ1名ずつの計3名のパネリストとして、なぎさなおこ氏、佐藤拓郎氏、池田右文氏に登壇していただいて、それぞれの立場や取り組みから話題提供、その後「食と農と福祉の連携による地域の未来」をテーマにパネルディスカッションを行い、フォーラムは16時に閉会した。 その後、18時から20時まで渡邉氏による本会の事業への課題解決や改善に向けた指導、助言いただく時間を設け、本会の今後の事業推進につなげるものとした。最終的な助言内容としては、事業に対してやそれを実施する法人等に対しての寄付、会費が重要でそれが事業継続につながるというもの、地域の中でそうした寄付・会費文化が根付くためには、本会のようなNPOの活動を地域住民に知っていただく、理解していただく機会が必要だと再確認した。	事業を実施したことにより「食と農と福祉」の事業ビジョンを整理でき、今後方向性や実施内容の具体化を本会としても、そして今回の訪問取材先、講師陣、参加者で共有できたのではないかと強く感じた。南部町の取り組みについて町長から直接話をしていただくことで、町長としても今までの取り組みを見直し、整理し、アウトプットできる機会となり、今後の南部町の事業ビジョンを新たにどのように進めていくかを考えるきっかけになったのではないかと考える。 パネルディスカッションでは、青森県内において「食と農と福祉」の最先端を進むトップランナーと言っても過言でない方々をパネラーにテーマについてディスカッションできたことは青森県にとっても重要な機会となったわけであり、それぞれの異なる分野のスペシャリストが共通のテーマで意見し合うことで、それぞれの考えや思いを共有でき、「食と農と福祉」の今後の目指すべきビジョンを共通認識した上で持ち帰ることができたのではないかと考える。 地域社会の抱える課題は今、複雑化しており、一つのカテゴリーだけでは解決できない問題も多く、こうしてそれぞれの専門分野を活かしながら、異なる分野とつながり、連携し合い、そうした複雑な内容をストレートに捉えられる視点を持って、異なる分野からアプローチをかけることで解決の道を切り開いていくのではないかと再確認できたことは成果として大きく、本会にとっても今後進めていく事業ビジョンを明確に定めることができた。

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
26	安藤昌益資料館を育てる会	青森県八戸市	橋本 和孝 三浦 忠司 小池 祐賀子 森 佳正	関東学院大学名誉教授 八戸歴史研究会 八戸市立図書館学芸員 コラムニスト	安藤昌益資料館開館15周年記念『安藤昌益とエコロジー思想』	令和6年10月26日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	「安藤昌益とエコロジー思想」をテーマにパネリストと参加者が昌益の思想と現代の環境問題について考えを深めた。 橋本名誉教授は、昌益は「獣肉は人間の食べ物ではない」としていた。動物も個体として尊重されるべきという『動物の権利』思想の先駆者とも言える」と述べた。八戸市立図書館学芸員の小池祐賀子さんは、「動物の出没や環境問題を抱える現代と、昌益のエコロジー思想が通じる」とし、昌益の主著で県重宝に指定された市立図書館所蔵の刊本「自然真営道」についてぜひ読んでほしいと呼びかけた。八戸ブックセンター主任の森佳正さんは、自身が企画して今年1月に八戸市内で開いた安藤昌益フェスティバルにまつわる話を披露した。		昌益の「法世物語」には、次のような一説がある。「鳥世は大きなものが小さなものを順繰りに食べる時は正常に保たれている。もし鷹が人に捕らえられて飼われてから、放たれて野山に帰ると、日頃とって食っていた小鳥どもに負けて、それから逃げ回り、ついには餓死するに至ると。これは、人間のわがままな行いが、野生動物を死に至らしめる結果につながるという警鐘を発したものではないか。橋本名誉教授は「自然中心的な社会の在り方をつくらなければ地球の消滅が早まる。生物と人間の循環を一体で考えていた昌益の思想がもっと注目されてほしい」と強調したことは、集まった50人の市民の理解を深めた。 シンポジウム後の質疑応答では、来場者から、「昌益の言っていた循環の輪いを、今受けていると感じている」「昌益には自然の中の人間」という考えがあったのではないかなど、さまざまな意見、感想があがり昌益についての関心の高まりをうかがわせた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
27	BeHereNow企画	山形県南陽市	前神有里	地域活性化伝道師	地域での新しい働き方を学ぶ勉強会	令和6年10月6日（日）
	講演内容				**事業成果**	
	・前神さんから、全国、特に滋賀県の福祉とデザインの事例などをお聞きした。 ・ろうきょうに限らず、NPOや企業組合など様々な法人があり、事業の内容や設立の経緯によって様々であること。 ・前神さんらが実際にろうきょうを立ち上げた経緯、県庁、フリーランス時代の話もお聞きすることで、組織で働くこと、個人で働くことで、そこから新しい法人を立ち上げた思いもお聞きすることができた。 ・山形からは、この1年間、準備会の形で温め続けた福祉と文化のそれぞれの起業のアイディアを発表した。 ・福祉のアイディアでは、表現を取り入れた福祉事業所の案 ・文化のアイディアでは、文化施設の指定管理をとる案 ・実際に立ち上がった前神さんのろうきょうの話と、これから立ち上げようという山形のメンバーで鼎談した。		・様々な「働き方」の事例を聞くことで、雇用されるという働き方以外にも選択肢があり「働き方」のイメージを豊かにすることができた。 ・他県ではすでに実践されている事例を聞くことで、ここ山形でも決して不可能ではないという実感を得られた。 ・グループワークでは、参加者のバックグラウンドや実現したい働き方や暮らし方を参加者同士で共有することで、ゆるやかな関係性を作れた。この関係性をこれからも続け広げていきたい。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
28	夢咲塾	奈良県大和高田市	古賀 馨 待野 太郎 山川 均	ミュージシャン・英語通訳 （公社）奈良まちづくりセンター理事 元大和郡山市文化財係主任	ヘリテージ・パーフォーマンス	令和6年9月21日（土） 令和6年10月19日（土） 令和6年11月23日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	①スペインのサンティアゴ・デ・コンポステラ巡礼旅の話： 講師の古賀馨氏により、巡礼路（カミーノ）約1000km踏破4かいの経験談、関連する自作曲のギターの弾き語り。参加者全員との座談会を行った。カミーノは1993年に世界遺産に登録され、2004年に登録された、紀伊山地の霊場と参詣道の手本となり、姉妹道の提携がされていることの報告がユネスコ関係者からあった。 ②アジア・ヘリテージネットワークなどの話： 講師の待野太郎氏により、奈良まちづくりセンターやアジア・ヘリテージネットワークの歴史都市保全活動の話。ネパールのゴルカ地震による歴史的建造物の被災状況と復旧話。子供達への慰問活動の話。ネパール民謡「レーサンピーリーリー」を参加者全員で合唱。待野氏と共演者のビリー・モスコス氏によるギターとボーカルのパフォーマンス。参加者全員との座談会を行った。 ③旧遊郭建物の保存と活用などの話： 講師の山川均氏により、全国を歩いて調査された旧遊郭の写真70枚を超えるプレゼン資料により講演。料亭やスナック、ゲストハウスなどに活用されて存続している建物がある半面、放置され朽ちていく建物の現状を報告。ギターの弾き語りパフォーマンスでは、自作の遊郭の文化に関連した話も披露。参加者との座談会での意見交換、質疑応答が行われた。		①古賀馨氏の話は、カミーノに行く切っ掛けの心情や、歩いている途中の美しい風景の写真1000枚の上映を含め、旅人同士の素晴らしい人間関係や巡礼路をフォローする地元の人々の心使いを語っていただき、世界遺産の巡礼路を維持するシステムが人々の思いにより維持されていることが理解できた。 ②待野太郎氏の話は、アジアの歴史都市でまちづくりを行っている、同じ思いの人々との連携や相互に学び合う大切さを語られた。ネパールの地震への支援も独自の発想と工夫により活動をされており、言葉より実践の大切さを学んだ。共演者のビリー・コスコス氏からは、ブルースの歴史を学ぶことができ、本格的なミニライブの体験と共に、参加者全員が感動した。 ③山川均氏の話は、今なお残されている遊郭建築から地域文化との関係、民族文化として記録に残すべき事の重要性が語られ、遊郭建築の活用の現状からその難しさが理解できた。大和郡山市が保存している遊郭建築旧川本楼の冊子を提供いただき、文化遺産として残された詳細内容が共有できた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
29	吉岡宿にしぴりかの映画祭実行委員会	宮城県大和町	佐藤裕美 金聖雄 朴秀子 尹金捷 高橋愼二	「NPO法人境を越えて」理事 Kimoon Film合同会社社長 在日女性同盟顧問 在日女性同盟顧問 JSC日本映画撮影監督協会正会員	吉岡宿にしぴりかの映画祭	令和6年11月30日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	社会の差別の中、戦争の大混乱にも巻き込まれた在日朝鮮人の人々の生活の実相を体験を交えて語ってもらい、また病気により身体の自由が奪われていき「生と死」に直面する具体的な姿に触れさせていただいた。知っているようで知らない世界を描く映画の内容を当事者を交えてより深めて考えさせられた。		集まった方々は、そもそも社会問題に関心の深い人たちだが、そういう人たちも「知らなかったことを知ることが出来て感じ入った」という体験になった。今回の体験を基に、それぞれが地域社会において、知らないことによる差別解消の啓発に繋がっていくと願う。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
30	（一社）未来社会推進機構	長野県飯山市	馬場直子 風義 Yae	文化NGOナマケモノ倶楽部事務局長 シンガーソングライター シンガーソングライター	～今、ここにある未来～ いいネマ上映会	令和6年8月10日（土） 令和6年9月14日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	サスティナブルでウェルビーイングな地域の未来を実現するため、地域の自然豊かな資源（自然資本）を活かし、関わる方々の共創（社会資本）を通じて、循環型経済圏（ローカリゼーション）の構築が必要と考えます。そこで、そのような考え方、生き方を広げていくため、上映会を開催しました。 その上で、パネラーをお招きして、パネルディスカッションを開催し、専門的な立場からお話をいただき、具体的な取組につなげていくこととしました。 ○第1回目 8月10日（土） 15時から16時 ・上映映画 サティシュ・クマールの今 ここにある未来 ・パネルディスカッションのテーマ 「人と人、人と自然、今の世代と未来の世代をつなぎ直す、Slowムーブメント」 ①パネラー 馬場直子（映画制作に制作補として携わる） サティシュ・クマールさんは、3つのS（土：ソイル、魂：ソウル、社会：ソサエティ）とのつながりの意識が重要であると話していたが、環境などの個別に問題にフォーカスするのではなく、3つのSを持った暮らしを送ることで、個別の問題の解決につなげていくことが大切である。 ②パネラー 風義（かぜよし）（映画では挿入歌を歌うことで関わる） 環境活動に関わっていた時期もあり、その世界も縦社会になっていて、目的は同じなのに ぶつかり合うことが多かった経験がある。サティシュ・クマールさんは、幸せとは満ち足りることと言われていたが、幸せになるためにどうしたらよいか、本当の豊かさとは何かを考え、暮らしの中への提案としていくことが必要である。 ○第2回目 9月14日（土） 15時から16時 ・上映映画 ヴァンダナ・シヴァのいのちの種を抱きしめてwith辻信一 ・パネルディスカッションのテーマ 「人と人、人と自然、今の世代と未来の世代をつなぎ直す、Slowムーブメント」 ①パネラー 馬場直子（映画制作に制作補として携わる） 今の農業は工業と同じように、大量生産による均一性が要求されているが、私たちとって今大切なものは逆に多様性である。また、自分というものは他者に依存している存在であり、所謂「おかげさま」思考は大切である。待っている友がいる、コミュニティの中に私たちは幸せを感じる、そんなおかげ様を感じる暮らしを失わないでいたい。 ②パネラー Yae（半農半歌手、シンガーソングライター） 加藤登紀子さんの二女として、歌手活動の傍ら、家族とともに自然豊かな里山「鴨川自然王国」で、農を取り入れたスローライフを送っている。土に触れる農のある暮らしの中に、生きる喜びがある。農業には気象状況等のリスクもあるが、恵みという喜びもある。逆に、コミュニティという仲間がいれば、そのリスクが軽減される。自然の力を感じる農のある暮らしには、生きがいが生まれる喜びがある。		文化NGOナマケモノ倶楽部が提案する映画を上映し鑑賞した後に、「人と人、人と自然、今の世代と未来の世代をつなぎ直す、Slowムーブメント」をテーマに、映画に携わっている方などお招きして、パネルディスカッションを行いました。 若者が地方から都会に流出するグローバル社会では、果たして幸せな暮らしを送っているのだろうか。日本は、世界幸福度ランキングが50位代と先進国の中でも長年低位にいることから、実は多くの方が幸福を感じているとは言えないことが分かる。一方、人口減少が続く地方は、集落自体が消滅するリスクさえあり、社会問題を引き起こしている。 映画鑑賞の後のパネルディスカッションを通じて、家族、近所同士お互いが依存する暮らし（おかげ様のある暮らし）は、幸せを感じる豊か暮らしであることが理解できた。また、そのような暮らしは、仲間同士が助け合うことで生活のリスクも補えるメリットもある。効率性や生産性を追求するグローバル社会ではなく、人と人とのつながりや人と自然とのつながりをもとに暮らすローカルな社会への回帰の必要性を学ぶことができた。 ローカルな社会への回帰は、言うほど簡単なことではないが、日頃から、幸せのこと、自然のこと、家族のこととなどお互いの価値観について話合うことが必要であると感じた。 今後も、このような活動や考えるきっかけづくりをつくり、真に幸せが感じられるローカルな循環型社会につくっていく自覚が生まれた。また、今回の活動により、同じ考えを持つ仲間づくりに発展できた。今後、さらにこの輪を広げていきたい。学び直しを体験を通じてできた貴重な機会となった。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
31	あわ・みらい創生社	徳島県阿波市	村田 まみ	福岡県三井郡大刀洗町役場 地域振興課課長	持続可能なまちづくりのための官民協働の方法について	令和6年8月5日（月） 令和6年8月6日（火）
	講演内容				**事業成果**	
	持続可能なまちづくりのための官民協働の方法について ①あわ・みらい創生社代表、まちづくり未来会議代表、コミュニティ代表が取り組みを話し、大刀洗町の対話の行政や観光についての事例から助言を受けました。（2時間） ②市民団体代表なぢまちづくりリーダーと話し合い、大刀洗町住民の取り組みなどを伺いました。町田市長も途中から参加、両市町のまちづくりについて意見交換をしました。（2時間）。 ③講演19:00～21:00（2時間） 演題『対話から始まるコミュニティ』大刀洗町の事例を挙げながら市民がまちづくりに自分事として取り組むには、テーマと対話が重要、住民は無作為で選ぶことが基本などを学びました。				1. 官民協働を目的とした講演会は官と民で行わなければ意味が無いと考え、阿波市役所でも村田まみさんを講師に研修会を開催していただきました。また、夜の市民講演会にも市役所から参加。繋がりが生まれました。 2. 対話の行政によって住民がまちの課題を自分事化していくプロセス、無作為で抽出した100人は～くじ引き民主主義の住民協議会～年齢も性別も関係なく一つのテーマから「対話」で生まれた方法を官と民で共有し実行して行った事例を私達も実行してみる方向へと進みそうです。 3. 村田まみさんに、今年度に再び阿波市へ来ていただき100人の対話を実現したいと会場の市民から意見があり、多くの参加者から同意を得ました。 4. 3日間村田まみさんにお越しいただいて、官民協働には対話が必要だと市役所も市民も感じたのではないかと思います。 まみさんは、旧態依然とした市役所に風穴を開けてくれたと思います。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
32	徳島県果樹研究連合協会	徳島県徳島市	太田佳美	佳豊庵 代表	果樹産地における女性活躍セミナー	令和7年2月21日（金）
	講演内容				**事業成果**	
	本県の果樹産業は、中山間部を中心にみかんやすだちなどの生産が盛んである。しかし、中山間部では人口減少や高齢化が深刻化しており、新たな担い手の獲得・育成が急務となっている。 果樹生産に新たな人材を呼び込み、果樹栽培を持続させていく上でも、生産者の意識改革を行い、女性が就農しやすい地域づくりを目指すことが重要であるため、本事業を開催し機運の醸成を図った。 講演では、中国四国農政局及び佳豊庵の太田氏から、女性の就農支援や先進事例の紹介を行い、意識啓発を図った。 また、パネルディスカッションでは、太田氏に加え、県内の女性果樹農業者に参加していただき、就農にあたっての課題や克服方法、地域社会との関わり方などについて、意見交換を実施した。				講演では、受け入れる企業側も女性が働きやすい設備や環境づくりが重要であるとともに、就農する女性も、地域との関わりを積極的に持ち、相談事にも真摯に対応していくことで、販路開拓につながることを学んだ。 パネルディスカッションでの意見については以下のとおり。 ①女性果樹農業者の課題 ・経営資源（土地・機械・資金）や販路の確保 ・育児や家事との両立 ②課題の克服 ・地域の研修制度を活用すると、土地や販路もある程度確保されている場合が多い ・行政との相談を怠らない ・農業女子グループに所属するなど、相談できる場を積極的に探しに行く ③地域との関わり ・楽しく農業をしていると家族も徐々に協力してくれる ・地域の農業者を栽培の先生にすることで親しくなり地域社会にも溶け込める。土地も貸してくれやすい。 ④女性農業者を増やすためには ・自立した女性果樹農業者のモデルケースをつくる ・SNSなどで農業の現場は楽しいことを発信する 本事業によって、女性が就農しやすい環境整備や地域連携の重要性を再認識する機会となった。今回招へいした太田氏と今後も継続して情報交換や交流を行うことで、中山間地域の活性化を推進していく。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
33	くまの木里山応援団	栃木県塩谷町	谷本丈夫 柴野達彦	宇都宮大学名誉教授 観音崎自然博物館 学芸員	「里山のくらしと自然」案内人養成検討会	令和6年11月23日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	谷本丈夫宇都宮大学名誉教授から「造林・森づくりの歴史に学ぶ～何のための森づくりか～反目しない産業としての森づくりと環境としての森づくり」というテーマで講演いただきました。植生は地形に左右されるなど、日本の森林は地域ごとに見ていかないといけません。地域ごとに生産目標を定めて、人工林では育林・造林・保育を、薪炭林施業は萌芽更新を主体に自然に成長してくる次の時代の稚樹を育てていました。森つくりの基本は、時代の風潮に惑わされるのではなく、森林を観察し続けることであり、それぞれの地域ごとに利活用含めて工夫をしていくことが重要ですと述べられました。フィールドワークでは柴野達彦学芸員により樹木の説明があり、谷本丈夫名誉教授から「全体的に、地力はあまり良いとはいえず、ローム層で水が溜まりやすい地形になっています。水が溜まりやすい地形であることを考慮して森林施業をしていくと良い。」とアドバイスいただきました。				・谷本先生から、いま全国の里山保全・再生活動で地権者の協力体制が難しくなっていて、活動ができなくなる事例がでてきているので、比較的自由に活動できるロベ倶楽部の里山はある意味貴重な空間になっていくのではという示唆をいただきました。 ・これまでは下刈や枯損木除去といった作業を中心に実施していましたので、今回別な視点で第三者に里山をみていただいたことで、新たな気づきを得ることができました。 ・里山保全・再生活動を継続していくためには、高齢者だけでなく若い世代とともに目標や計画を立てていくことが大切なのではないかと思いました。 ・今後、季節をかえて「里山のくらしと自然」案内人養成検討会を実施していきたいと思います。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
34	えひめ地域力創造センター	愛媛県松山市	斎藤 和真 板垣 義男 笠松 浩樹 一柳 帆花	特定非営利活動法人かえる舎 代表理事 （一社）えひめ暮らしネットワーク 代表 愛媛大学社会共創学部 准教授 （一社）ゆりラボ サポーター	第3回えひめ地域活力創造フォーラム 『自分をかえる、地域をかえる～世代ブレンドで魅力ある地域をつくる～』	令和6年10月12日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	○基調講演 特定非営利活動法人かえる舎（山梨県富士吉田市）の斎藤和真氏による講演を行った。富士吉田市の地域の紹介やかえる舎の取組み、かえる舎と地域の関係について説明があった後、zoomを利用してかえる舎で活動する高校生2銘による活動紹介が行われた。また、斎藤氏が生徒2名へ活動を始めたきっかけや活動を通して変化した事等をインタビューし、かえる舎の高校生の活動への理解や地域と学校、高校生、かえる舎との関係への理解を深めた。 ○事例紹介 愛媛県立上浮穴高校の放課後ラボに所属する生徒による活動紹介が行われた。放課後ラボの生徒が制作した「上浮穴高校PR動画」の上映を行い、久万高原町や上浮穴高校、放課後ラボの様子や活動への理解を深めた。 ○パネルディスカッション かえる者と放課後ラボの取組みを基に、生徒の自主性を活かす支援を地域や関係機関などがどう行うか、生徒の地域活動への考えや、学業との両立などについて意見交換を行った。また、slidoを通して来場者から寄せられる意見や質問に対するレスポンスを行った。				フォーラム後に行った来場者アンケートでは上浮穴高校、かえる舎の生徒の発表から生徒が生き生きと活動している姿が励みになった、生徒達の正直な意見が聞けてよかった、生徒達の積極性を地域の大人が受け止める体制が大切だと思った等の感想があり、富士吉田市やかえる舎に興味を持ったとの感想も多くあった。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
35	岩沢アチコタネーゼ	新潟県小千谷市	図司 直也	法政大学教授	中山間地における農業のこれからと学生インターン事業について	令和6年8月29日（木）
	講演内容				**事業成果**	
	当日の午後に岩沢地区に入り、早速岩沢地域で東京農業大学を卒業し生産組合を立ち上げた専業の農家の若者と懇談を行った。この地はいわゆる中山間地であり、小規模米農家が多いことから、離農する家が多く、小作を委託されるがこれ以上は受けられないなどの相談があった。また、豪雪地帯でもあるので、稲刈りの後に収穫できるカリフラワーや雪下大根の加工品など様々な取り組みを行い、収益を得ていることなどについて話し合った。教授からは直接支払い制度や米ブランド化による価格の引き上げなどのアドバイスがあった。 その後、インターン生の行った成果を視察。夜の講演では、別紙の内容のお話をいただき、各地の事例を交えながら、農山村のこれからのあり方について講義をいただいた。				教授のフィールドワークでは、なんだか知らないが若者がウロウロするだけで、集落の話題となり、外部から刺激を受けることで地域の元気に繋がるとアドバイスをいただき、これからも会がインターン事業を続けていこうとの機運が高まった。また、お手伝いをした農家から新米が採れたら送るなどの提案があり関係人口の創出にも繋がった。 講演会の参加人数は予定していたより少なかったが、市議などにも多く参加していただき、今後の農業市政運営にもつながる良い講演だったとの評価をいただいた。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
36	まちづくりNPOげんき宮城研究所	宮城県東松島市	スチュー・リービー	(株)TOKYOPOP創立者、映像作品のプロデューサー・監督	映画上映会とトークセッション、ミニコンサート、意見交換会の開催	令和6年9月28日（土）
	講演内容				事業成果	
	（1）映画上映会「PRAY FOR JAPAN～心を一つに～」 短縮盤46分「家族・ボランテイア」編（2）トークショー　スチュウ・リービー監督、撮影の動機及び苦労話、被撮影者との交流など（3）意見交換会 監督含む全員（4）ミニコンサート　全6曲演奏				（1）市外、県外からの参加者があった。（2）映画を観て当時を思い出したり懐かしんだり、あの状況で映像として残してもらったことへの感謝が多く寄せられた。（3）参加者全員で意見交換会が実施できた。（4）凱旋ミニコンサートは大盛況だった。 （5）参加者数は不満足、学生世代を呼び込めなかったことが反省点としてあげられる。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
37	梅が里ギャラリー　手づくり屋	長野県宮田村	原 妙子 田中 真吾 堅谷 綾菜	かたこと（フォトグラファー、ハンドメイド作家） 伊那谷BASE（SNS コンサル） えほんBB（クリエイター）	情報発信強化のためのインスタ講座	①令和6年9月8日（日） ②令和6年11月10日（日） ③令和6年12月8日（日）
	講演内容				事業成果	
	情報発信力を強化し、地域活性化とコミュニティー拡大を目的に「インスタグラム講座」を企画しました。講師には、上伊那地域在住のインフルエンサー3名に依頼。インスタグラム講座では、SNS、インスタグラムの基本から始め、発信の基礎知識、スマホカメラ撮影、機能を学びました。さらに実践編として、投稿の悩みや動画編集、運用を始めたアカウントの添削を通じて、効果的な発信方法を指導がありました。Canva講座では、アプリの基本操作、テンプレート活用、デザインスキルを伝授し、初心者でも簡単に魅力的な投稿を作成できるようサポート。これらの取り組みを通じ、苦手意識のあった参加者のスキルアップができました。地域の魅力やイベント情報を発信する力を育成し、地域全体の情報発信力と持続可能な活性化活動への強化へと繋げられました。				本事業では、SNSへの苦手意識を克服し、インスタグラムとCanvaの活用スキルを習得する成果を挙げました。インスタグラム講座では、SNSの基礎から実践的な活用方法まで学び、参加者は3回の講座を通じてアカウント運用を開始。投稿や写真撮影、効果的な発信方法への理解を深めました。 また、Canva講座を通じて、デザイン初心者でも簡単に地域活性化イベントのチラシ作りに取り組めるスキルを習得。参加者がこれらのツールを活用し、地域の魅力や活動内容を発信する力を向上させることができました。今回の取り組みは、情報発信力を基盤とした地域活性化の持続可能な推進につながる事業となりました。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
38	いちかわライフネットワーククラブ	千葉県市川市	鎌倉 浩嗣 木村 則彦 小谷野正博 高宮務 三浦康彰 寺田圭彦 中川奈見	千葉工業大学情報科学部 情報工学科 教授 技術士（建設部門／都市及び地方計画） 国家資格 情報処理安全確保支援士・PMP 技術経営修士(MOT) 一級建築士他・ドローン操縦資格他 国家資格キャリアコンサルタント CB カウンセリング研究会代表・産業カウンセラー	いちかわTMO特別講座「TMOシンポジウム」 ～市民活動における、情報活用の可能性～	令和 6年11月16日（土）
	講演内容				事業成果	
	～市民活動における、情報活用の可能性～ をテーマとして外部講師を招き「TMOシンポジウム」を開催した。かつて大企業・組織の専有物であった情報技術も、個人の活用が十分可能な時代となり、コロナ禍を経て、情報分野の人材の市川市へのテレワーク回帰もみられる。こうした状況を追い風とし、TMO修了生が、情報技術を駆使した地域ビジネスの先駆けとなる事例を相互に共有できた。				情報セキュリティ、ドローンと環境プログラミング、メンタルサポートなど、情報通信の分野で、いちかわTMO講座修了生が現在実施中の取り組みを発表した。それに対して学識経験者等から意見を得、それぞれの気づきを得るとともに、新たな参加者が加わり、活動の活性化を図ることができた。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
39	特定非営利活動法人高安能・カエバス	大阪府八尾市	伊藤　孝充 今泉　隆裕 福田　祐美子	法政大学文学部教授 桐蔭横浜大学スポーツ科学部教授 八尾市立しおんじやま古墳学習館学芸員	「八尾と能」高安能魅力発見シリーズ ～古代の能番外曲《守屋》～	令和7年2月24日（月）
	講演内容				事業成果	
	八尾と能の関りを通じて地域づくりに役立てる手法を探ることを目的とする講座とパネルディスカッション。 歴史上、八尾に深いかかわりがある物部守屋と聖徳太子の戦いを描いた能作品《守屋》の復曲を目指すことを一つの目標として、地域づくりに活かす。 基調講演　能《守屋》の歴史 パネルディスカッション　古代の能　番外曲《守屋》の魅力				地域にゆかりの能楽作品を復曲するとは、どういう作業を要して、どのような手順で進められていくのか、具体的に《守屋》という作品を通じて能楽研究者の説明を聞くことにより、歴史と伝統文化を結び付けて八尾市を活性化するソースの一つとして、八尾市民、歴史愛好家、能楽愛好者を中心に地域への関心を高め、文化振興、伝統文化継承につないでいくことが出来ることが認識できた。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
40	支え合いネットワークなんぶ	青森県五戸町	井上 丹 木村　優哉 佐藤美穂子 中里　政廣 橘　マキ子 植嶋　平治	八戸学院大学地域経営学部地域経営学科准教授 一般社団法人わのまち代表理事 ふるさとの家保存会　会長 五戸町桜沼を守る会　顧問 わくわくボランティア　会長 まちづくり有志団体「五之魂」	民力～縦割りを越えた横の連携	令和6年12月8日（日）
	講演内容				事業成果	
	八戸圏域で活動するボランティア市民活動団体、NPO等の横のつながり、ネットワークを構築することはもちろん、市町村をまわり、『研修会開催』という手法でその地域の行政、関係機関とのつながりを広げることを目的に、『民力！～縦割りを越えた横の連携～』をテーマに五戸町において開催。 今回は研修会のプログラム形成を五戸町で活動する方々に協力していただき、五戸町内の先駆的に活動されている4団体の事例紹介を話題提供として、トークを展開する第1部と、『ボランティア＝災害発生時の力に』をテーマに地域、関係機関（社会福祉協議会）、教育委員会、行政（総務課行政防災班、介護支援課）からパネラーに参加していただき、コーディネーターには八戸学院大学地域経営学部地域経営学科准教授の井上丹氏をお招きしてのパネルディスカッションの第2部の構成で開催した。				五戸町で活動されている方々の協力により、町内の様々な団体、行政、関係機関の方々による研修会内容とすることができたことが横のつながりの一歩だと言える。第1部では、それぞれの団体が他の団体との連携を模索し、「ふるさとの家で高齢者サロンができれば」など具体的な協働案も出されたことも大きい。第2部においても、災害時だけでなく、日常的な連携を考える機会となり、地域、関係機関、行政、教育委員会の部署が異なるとしても、それぞれの立場で横のつながりを真剣に考える機会とすることができ、市町村単位でまずはネットワーク構築し、それらをつなぎ、広域ネットワーク構築へ広げていくモデルとすることができた。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
41	NPO 法人ルネッサンスファクトリー	宮城県色麻町	柚木理雄 町田 剛	Little Japan代表取締役、中央大学特任准教授 ふるさと回帰支援センター 移住相談員	二地域居住を考えるシンポジウム	令和 6年10月5日（土）
	講演内容				事業成果	
	全国的に人口が減少していく中、様々な施策を実施しても、急激な回復というのは物理的に不可能であるため、当面の間は、今ある人口をフルに活用していかざるを得ない。その際に、各自治体が移住定住事業を行うと、減っていくパイの取り合いになり、自治体は疲弊していく。人材を取り合うよりは人材をシェアしていく方が地域の活性化には有効で、そのような働き方をする場合、二地域居住や多地域居住は有効であ る。ただし、二地域居住を推進するには DX 浸透と定着化は不可欠である。初めての土地にいきなり移住する地域おこし協力隊等よりも、二地域居住の方が、地域との軋轢が生まれにくいというメリットもある。				閉会後は、両講師のところに参加者が集まって懇談していた。色麻町内からの参加者からは、やはり農業の後継者問題の質問が多く、農業には閑散期もあるため、二地域居住しながらの農業は可能だとの回答をもらい、腑に落ちたような表情をしており、今後の展望にもヒントを得ていたようだ。また、行政職員と柚木氏は、この回をきっかけに随時連絡を取り合い、関係人口づくりの事業について、柚木氏が経営する株式会社 LittleJapan との具体的な連携について、詰め始めている。参加者は総じて、移住定住の他に、地域活性化の新たな選択肢を得ていた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
42	米沢街道地域づくり検討会	新潟県関川村	佐藤 正三郎 前山 みゑ子 神田 舞子	米沢上杉文化振興財団職員・学芸員 おしょうしなガイドの会会員・ガイド 関川村役場せきかわ歴史とみちの館職員・学芸員	「米沢藩・上杉鷹山公と関川村・渡邉家との絆」と「越後・下越地方における戊辰戦争」を題材とした、タイトル【関川郷と米沢藩の縁】として講師3名それぞれの切り口による講演会および質疑、意見交換会 翌日、今後のイベント企画、検討の為の 戊辰戦争の戦跡調査	令和 6年10月4日（金）～5日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	講演会10.4（金） ・講演1 演題「関川郷と戊辰戦争」講師：神田舞子氏 当地（関川村）から見た、米沢藩の侵攻の状況（戦争時、中継基地の役目）をPPを使用し、近隣での新政府軍との戦いをわかりやすく講演。参加者なじみの地名が多く、わかりやすい講演であった。 ・講演2 演題「戊辰戦争に至る米沢藩の戦略と関川」講師：佐藤正三郎氏 江戸幕府領の預かり地であった米沢藩の当地方での活動（日本海沿岸の警備）から、戦争時の越後における新政府軍との戦いの概要（長岡、新潟）、並びに当地域における状況をさまざまの史料、書籍を根拠として講演（PP使用）。 （※R6．4～6、米沢市上杉博物館で開催された特別展「上杉茂憲」…米沢藩、最後の領主の企画、運営に携わったことから戊辰戦争に熟知） ・講演3 演題「米澤の魅力を伝える、おしょうしなガイドの活動」講師：前山みゑ子氏 2013年、渡邉家と米沢の関係を村民の研修視察時、初めてガイドをお願いして以来、交流を続けていることから、ガイドとしての経験談や関川村との交流状況をPPにより親しみのあるガイド調で講演。好評（アンケート） ・質疑、意見交換会 3名の講演に対する感想、今後も関連の講演を希望する意見や、細部の質問等あり。また、講師からの補足説明もあり、活発な時間となった。 戦跡調査10.5（土）※別紙行程通り 6カ所 米沢藩、全軍撤退命令後の最後の戦い（中条での攻防戦、梨の木峠での戦い）の戦跡を検討会で収集した資料により現地を案内。				コロナ感染症が第5類に移行後も入館者数が回復しない「関川村の誇り」とする国指定重要文化財・渡邉邸。 当会の事務局を渡邉邸内の（公財）渡辺家保存会内に置き、また、講演会などで母屋を利用させていただいていることから、入館者増対策を検討する為、企画した。 「関川郷と米沢藩の縁」をテーマとして、講師3名の方々にそれぞれの切り口での講演を実施。参加者に、上杉鷹山公時代から戊辰戦争までの米沢と関川村の深い繋がり、ならびに、現在の交流…「関川と米沢の交流、これからも未来に向けて」…（前山みゑ子氏の講演）を理解してもらったと思っている。 結果、会場満席のもと、講師を囲む活発な意見交換並びに回収したアンケートから、米坂線早期復旧対応を含め、多くの企画案、アイデアをいただくことが出来た。（当日回答提出18名、意見交換会5名、後日提案4名、事前検討提案8項目） また、翌日、戊辰戦争での米沢藩の戦死者の石碑やエピソード箇所を調査、今後、米沢に残る資料の提供や、これらを利用したツアー等の企画、助言を依頼、了承を得た。 今後、当会の案と今回の参加者からの提案を整理、とりまとめ、講演会に参加された県および村の行政機関や保存会と協議、連携して、出来ることから実行、検討会として渡邉邸の活性化のお手伝いを行うこととしたい。

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
43	木曽子育てまちづくりの会	長野県木曽町	米澤 晋也 浜 武之	一般社団法人ドリームペーパーコミュニケーションズ 代表理事 一般社団法人ドリームペーパーコミュニケーションズ 理事	親子で夢新聞作り	令和 6年11月4日（月）
	講演内容				**事業成果**	
	チアリーディングクラブの子どもが夢新聞を書き、全国大会出場をはたした話。マヒのある生徒が水泳大会へ出場し、校長先生が全力で応援した話。 実際の話を通して、夢を他の人にもわかるように表現すること。すると応援してくれる人が出てくることをわかりやすく説明。その後、各自で夢新聞を作成した。 後半は、親はプロジェクトX赤ちゃんの命を救うため奮闘する医師と助産師のDVDを鑑賞。その間に子どもは親への手紙を秘密で書き、DVDを鑑賞していた親へサプライズで手紙を渡した。親からは子どもがどんなに大切な存在か、生まれてきてくれたことがどんなに嬉しいかを言葉にした。 それにより、子どもの自己肯定感が育まれた。				参加者の感想を紹介します。 「健やかに育っていることを改めて幸せに思います。初心にかえる気持ちをありがとうございました。」 「『親子で』というのがすごく良かった。ぜひ他の人にもすすめたいです。子どもの"未来叶えたいことを実現するために"逆算して考える勉強にもなったと思います！」「たくさんの親子が共に1つのことを達成し感動して泣けた。子どもを産み一緒に育てているこの瞬間に感謝。」 親子の絆を深めるよいきっかけとなりました。

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
44	特定非営利活動法人 街・建築・文化再生集団（RAC）	群馬県中之条町	塚原 秀之	長野市教育委員会事務局 文化財課 主査	『地域の歴史遺産を活かしたまちづくり』 －群馬県中之条町の豊富な歴史遺産をまちづくりに活かすー	令和6年9月22日（日）～ 令和6年9月23日（月）
	講演内容				**事業成果**	
	22 日の見学会は 25 名の参加となった。博物館々長山口氏、観光ガイドの高橋さんのご案内で、旧六合村地区の赤岩集落、小雨の市川家、旧太子駅を見学した。赤岩集落では,赤岩重伝建保存活性化委員会々長関氏に集落の生活から文化財活用の現状について解説頂いた。市川家は、かつて、草津温泉で旅館経営も行い、この地域の旧家で有力者の家系である。江戸後期から昭和期まで膨大な文化財資料を保存、展示公開を行っている。ご当主からご案内頂いた。太子駅では群馬鉄山関連の近代産業遺産について学んだ。23 日午前中の見学会は、中之条地区の重文「富沢家住宅」県重文「神保家」の地区の旧家、有力者の屋敷を見学した。2 日間の見学会で当地区の豊富な文化財をご理解頂けたと考えている。23 日のパネルディスカッションは、最初に急遽ご参加頂いた高浜洋平氏（竹中工務店まちづくり戦略室）から信州重伝建地区「奈良井宿」での取り組みをご報告頂き、塚原氏からは長野市戸隠の重伝建地区での取り組みと現在進行している「歴まち法」の適用についてご報告頂いた。両氏の報告はこれからの中之条町での取り組みに貴重な示唆となった。米山 RAC 理事は全国各地で歴史的建造物保存活用の事例報告をおこなった。中之条町からは山口氏の中之条町の成り立ち、伝えられている無形文化財を含めた貴重な歴史遺産の報告が有った。村上氏からは、ご自身が買い上げ、リノベーションして活用している古民家の報告とご自身が目指している歴史的建築物を活かしたまちづくりについて話された。				私たちは、各地の絹遺産を地域の歴史、伝統文化、継承すべき文化遺産として、地域活性化の切り札として活かす手だてを、地域間交流を通じて知恵を出し合い、創り上げることを目的としている。 今回の研究集会は、中之条町の豊富な歴史遺産をまちづくりに活かすその具体的な手立てを見いだすことを目的としていた。高浜氏、塚原氏の最新の現実的な取り組みであり、中之条町には受け皿である市民活動も芽生えており、町も積極的に文化財の公有化も進めており、両氏の報告はこれからの中之条町にとって貴重な示唆で合ったと思う。 当日は町民、行政の積極的な参加を得て、講師の講演と議論の中から、一歩踏み出す方策が見えてきたと考えている。次年度に向けた活動に弾みのついたフォーラムであった。

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
45	ふるさと文化を語り継ぐ会	長野県茅野市	稲垣真理子 関口慶太郎	星の時間代表 個別指導塾M.E.C代表	子供たちの多様な学びを考える集い	令和6年10月26日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	①シュタイナー教育をドイツで学び現地での保育指導の体験談及び「星の時間」開設経緯にまつわる紹介。 今の子どもを取り巻く環境と大人と地域の在り方について概説。 ②アフリカ・ボツアナに滞在した体験から現地の生活経済状況と子どもの学校教育事情を解説。				講師との交流において、不登校児を持つ祖父母の対応の仕方に関する質疑。若い人からの個人塾の実情についての質疑。学校教師の郊外地域活動の実例紹介（バンドーラ製作と演奏活動）。校外活動（スケート）挫折の悩み。など活発に行われた。

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
46	一般社団法人ながぬま	北海道長沼町	糸原絵里香	一般社団法人シェアリングエコノミー協会	テレワーク及び在宅ワークの認知度向上・普及啓発	令和6年12月3日（火） 令和6年12月17日（火）
	講演内容				**事業成果**	
	本プロジェクトの目的は、地域の経済面や人口流入による地域活性化を図ることです。これを達成するために、以下の活動を行います。 1. オンラインワーカーの育成 ・オンラインワーカーとしてのスキルを身につけるための研修会を開催。 ・研修会語も継続的な伴走支援を実施し、地域住民がオンラインワーカーとして独立できるよう支援。 2. 経済面の活性化 ・オンラインワークを通じた新たな収入源の確保。 ・地域内外からの投資誘致や新規事業の創出。 3. 人口流入の促進 ・オンラインワーカーとしての働き方の魅力を発信し、他地域からの移住者を増やす。				2024年12月3日と17日の2日間にわたり開催した「長沼町在宅ワーク入門セミナー」の振り返りと集計作業を行いました。セミナーには、3日が29名（うちアーカイブのみ6名）、17日が19名（うちアーカイブのみ4名）のお申込みをいただきました。受講者アンケートは2日間を通じて18名の方にご回答いただき、講師の糸原氏には2名の方が個別相談をされたとのことです。延べ48名のお申込みがあったものの、実際の参加者は2日間合計で21名となりました。（12月3日は現地参加9名、オンライン参加5名、12月17日はオンライン参加7名）。アーカイブ視聴に変更された方や、参加を見送られた方が多かった印象です。特に年末の多忙な時期ということもあり、スケジュールの都合で当日参加が難しかった方が一定数いらっしゃったように感じられます。

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
47	NPO法人 BaRaKa	長崎県五島市	伏谷 博之 森 隆一郎	ORIGINAL Inc. 代表取締役 合同会社渚と 代表	外国人視点を通して地域に根ざした文化と観光を考える	令和6年10月14日（月）
	講演内容				**事業成果**	
	伏谷氏が代表を務める「タイムアウト東京」は訪日外国人が多く参考とするメディアの1つですが、そのことが国内ではあまり認識されていません。伏谷氏が強調された「世界目線」でのインバウンドに対応する考え方を共有できました。森氏には文化政策を意識した観光の注意点などを共有いただきました。特に気になった点は、観光における「環境的配慮」、令和3年に障害者差別解消法が改正され、事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されたこと、近い将来に法的罰則が始まることは必至で、観光施設の改修などに関係してくることだと思いました。				五島市観光協会会長、五島市地域振興課部長など五島市の観光に関わる主要な方々に多数来場いただきました。伏谷氏が代表理事である一般社団法人 日本地域国際化推進機構の理事には前観光庁長官の田端 浩氏をはじめ名だたる政策アドバイザーが多数いるので、五島の文化観光に有識者としてご協力をいただくようにお願いしました。また、文化政策の専門家である森氏に弊団体の理事に就任いただいたので今後も気軽にアドバイスをいただくことができるかと思います。現在弊NPOは五島の日本遺産「明星院」の住職より劣化が進んだ天井画の修復に関して相談があり、長崎県と五島市とで協働しています。日本遺産に関する取り組みは黎明期と言えるほどやらなければならないことが山積しています。これからも島外の有識者に協力いただき、「日本遺産」を意識した文化観光を五島で推進してつもりです。長崎新聞にもシンポジウムの記事を掲載いただきました。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
48	岡山建築設計クラブ	岡山県岡山市	アリソン理恵	建築家、獨協大学非常勤講師、 一級建築士事務所ara主宰	「これからの市場ふくふく通りをみんなで共に創ろう！！」	令和6年11月9日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	獨協大学非常勤講師アリソン理恵先生が設計される時の苦労、考え方を今の生徒がわかりやすいように写真等を交えながら講演をいただきました。その中でも人々が建物の中で一番気持ちのいい場所、居心地のいい場所はどこなのかを常に考え建物の設計を行っておられること、また、今は実現できなくても将来、素敵な空間を作り出すうえで、必要な素材、考え方を自分の中で整理し、確保しておくことなどを、ご自身の作品紹介をする中で、前々から考えていたものがやっと実現できたことなども踏まえ講演をしていただきました。				「これからの市場ふくふく通りをみんなで共に創ろう！」をテーマとした6校10チームの模型とプレゼンテーションを7分発表、7分質疑応答とした公開コンペ、そしてプレゼンでは発表しきれなかった内容を各テーブルで学生が話しやすいように水を向けていただきながらの追加説明を各チーム9分ずつ持たせていただきました。普段の課題の中での考え方とはまた一つ違う形での建築設計への一面を感じることのできた時間であったと思います。アリソン先生からは、総合的に建築デザインは全国的にもそんなに劣ってはいない、プレゼンに関しては書いたものを読み上げるのではなく伝わるように相手を見ながらと厳しい評価もいただきました。最優秀賞は、岡山理科大学チームY’sです。特別協賛いただいた市場賞には、岡山工業高等学校が入賞しました。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
49	はらづつみ	新潟県新潟市	佐藤千裕	旬果甘末店ルコト主宰	子どもと大人の料理教室	令和6年11月9日（土） 令和6年12月14日（土） 令和7年1月26日（日）
	講演内容				**事業成果**	
	「こどもと大人の料理教室」を3回企画。地元で採れた旬の農産物を無駄なくまるごとふんだんに使用した献立を考案して実施。地産地消・地域の食文化を守ることは地域の農業を守ることにつながる事を子供たちにもわかりやすく伝える。「ばぁちゃんのごっつぉ」も一品加え、地域の過程で受け継がれてきた味を伝承し、ばぁちゃん達も子供に伝える喜びを体感する機会を作る。 包丁の持ち方など基本から教え、子供達の自主性を重視し、子供が主体となって調理に取り組み、大人が見守り、サポートする形で行うことで、「自分の力で作って食べる」ことが出来る子供を地域で育む。				料理教室の実施を通して、講師から旬の地元農産物を皮や葉も無駄なくおいしく生かした食事作りと、子供たちへの食育の指導法を学ぶ事が出来た。 子供達の自主性を重視し、具代を自分で選び、各班でオリジナル味噌汁を作り食べ比べするなど、調理の楽しさや興味を引き出し、達成感を感じてもらう事ができた。 「ばぁちゃんのごっつぉ」では地域の大人が昔から食べなれている味を、味覚の発達期である子供達が味わう機会ができることで、シルバー世代と子育て世代の交流も深まり、子供たちに伝承する喜びと大切さを感じることができた。 「自炊のできる子供を育てよう」と、これまで地道に活動してきたが、当事業を横越小学校の先生方が見学に見えて、今後新たな事業として「米を炊いてみそ汁を作る」という内容が授業に組み込まれることになった事が、当事業を続けてきた大きな成果である。実施の際にはシルバー世代が保護者とともにサポート役として活躍し、さらなる地域の活性化を期待している。	

NO	団体名	所 在 地	講師氏名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
50	特定非営利活動法人 信越トレイルクラブ	長野県飯山市	松川 亮太 和田 幾久郎 Jay Dement	特定非営利活動法人みちのくトレイルクラブ 株式会社ナムチェバザール 代表 Georgia Appalachian Trail Club Marketing Committee Chairman	トレイル整備イベントの開催 「Trail Maintenance Meeting 2024 未来へ続くロングトレイルを運営するための2日間」	令和6年10月25日（金）～26日（土）
	講演内容				**事業成果**	
	1日目はアメリカ東部のアパラチアントレイルの整備団体の一つである、ジョージアアパラチアントレイルクラブ（GATC）から信越トレイルを歩きながらワークショップ形式にてトレイルの整備手法を学んだ。2日目のトークセッションでは講師による各トレイルの紹介を皮切りに、現在のトレイルメンテナンス体制やその構築のほか、地域との関わり方や行政との関係性などについて、地域ごとの相違点や類似点などを確認しながら、議論や意見交換が進んだ。GATCからは同クラブの担当育成制度など長期間の運営経験に基づいた様々な取り組みも紹介された。場所は1日目が信越トレイルのルート上、2日目は長野県飯山市のなべくら高原・森の家にて実施。出席人数は二日間で延べ199人と、トークセッションを中心に地域住民を含め多くの方々に参加いただいた。				GATCのJay氏から、トレイルを歩くハイカーが安全に利用でき、自然環境に配慮したトレイルにするためのメンテナンス手法とその考え方が解説された。トレイルの水の流れの改善や排水処理追加などを信越トレイルのコース上で実施した。日本各地でトレイル整備や運営を担当している参加者も多く、解説のあった整備手法や考え方は新しい視点となっていた。共に整備作業を実施し意見交換することで自然環境や保全に対する考え方が深まる場となった。トークセッションにて講師から各地の取り組みや課題を紹介いただいたことで、参加者は持続的なロングトレイル運営に向けた気づきや示唆を得ていた。今回初めて信越トレイルを訪れた参加者もおり、信越トレイルの自然環境を体感し北信地域と新たに接点を持っていただく機会になった。	